

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 4 月 19 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520169

研究課題名(和文) インドネシアにおけるコミックの考察：叙事詩マハーバーラタを対象として

研究課題名(英文) Indonesian comic works: Considering the Indian epic poem Mahabharata

研究代表者

福岡 まどか (Fukuoka, Madoka)

大阪大学・その他の研究科・准教授

研究者番号：40379318

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円、(間接経費) 390,000円

研究成果の概要(和文)：この研究は、インドネシアにおいて1950年代以降に創作が始まり1960-80年代にかけて人気を呼んだコミックに焦点を当てている。伝統演劇であるワヤンの物語や表現方法と密接な関連を持つこのコミックはワヤン・コミックと呼ばれている。ワヤン・コミックの先駆者でもっとも影響力を持った作家であるR.A.コサシ(1919-2012)の作品を取り上げて、物語や表現方法の分析、実際のワヤン(影絵や人形劇)上演との関連についての考察を行った。文献調査に加えて2回の現地調査を行い、芸能上演の観察と記録、インタビュー調査などを通して伝統芸能とコミック相互の関連についての検討と分析を行った。

研究成果の概要(英文)：This study examines the characteristics of Indonesian comic works focusing on the repertoire of the Mahabharata, one of the major epic poems of ancient India. Among Indonesian comic writers, R.A.Kosasih(1919-2012)was the best known and most successful. Since 1950's he created his popular komik wayang, or comics of wayang, which earned its title because of its close relationship with the wayang theater.

This study focused on his series of works from the Mahabharata. He created them from the main stories of the Mahabharata also creating works base on special episodes in Javanese wayang performances. In addition, Kosasih was greatly affected by several Indonesian translations of epic poems. In this study I consider Kosasih's unique way of dramatization by comparing the episodes in wayang performance with the corresponding parts in Kosasih's comic work.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術学、芸術史、芸術一般

キーワード：大衆芸術 伝統芸能 インドネシア コミック・ワヤン マハーバーラタ R.A.Kosasih

### 1. 研究開始当初の背景

この研究は、1960-80年代のインドネシアにおけるコミックの普及を大衆文化の嚆矢として考察することを目的として始めたものである。特にここでは影絵や人形劇に代表される伝統芸能ワヤン wayang の物語をコミックにしたコミック・ワヤン wayang komik に焦点を当てた。研究開始当初の背景としては、インドネシアにおいては伝統芸能の研究はさかんに行われてきたが、その一方で大衆文化としてのコミックの研究成果が非常に少なかったこと、また伝統芸能の持つ「大衆性」の側面や、伝統芸能がコミックなどの大衆文化とどのように関係を持っているのかというテーマに関してはほとんど成果が見られなかったことにある (Buurmann 1988, Chudori 1991, Sears 1994)。そこでこの研究では、コミックを資料として内容分析を行い、作者へのインタビュー調査や伝統芸能の上演などの検討を通して、伝統芸能と大衆文化との接点を探り、大衆文化とされるコミックがインドネシアにおいて伝統芸能の発展や叙事詩などの物語世界の普及に果たす役割を考察することを目指した。代表者は、すでにこのコミックに関して古代インドの叙事詩であるラーマヤナの物語の内容分析を試みたことがある。1975年出版の『ラマヤナ Ramayana』全3巻については全体の内容の検討を終えて、その成果を研究論文「インドネシアにおけるラーマヤナの再解釈：R.A.コサシのワヤン・コミックを対象として」として発表した。(2009年『東南アジア歴史と文化』No. 38:106-140頁)。ここではワヤン芸能における物語の内容とインド起源の物語の双方を融合し、さらに創作者自身の創作を加えた独特なヴァージョンがコミックの中で創り出されてきたことを示した。一方でマハーバーラタの作品群は分量的にも内容的にもコサシの重要な作品であり、分析と考察に一定の期間を必要とする。報告者は以前、芸能におけるマハーバーラタについての論考を執筆したことがある。福岡まどか 2004年「ジャワ島のワヤンにおける叙事詩世界の形成：マハーバーラタを対象として」、『国立民族学博物館研究報告』28(4):571-596頁。だがこの論考ではまだコミックについての考察を行っていない。したがってこの研究の中では主としてマハーバーラタを物語の対象として取り上げ、その内容を分析し、現地調査も行いながらその特徴を考察することを目指した。

### 引用文献

Buurman, Peter. 1998 *Wayang golek: The entrancing world of classical Javanese puppet theatre*. Singapore, Oxford University Press.  
Chudori, L. 1991 "R.A.Kosasih: Di tengah Pandawa dan Kurawa" *Tempo* 21 December 1991, pp.41-67.

Sears, Laurie J. 1994 *Shadows of Empire: Colonial Discourse and Javanese Tales*. Durham: Duke University Press.

### 2. 研究の目的

この研究の目的は、インドネシアにおけるコミックの分析を通して古代インドの叙事詩の普及や伝統芸能と大衆文化との関わりを考察することである。インドネシアでは、影絵や人形劇に代表される伝統芸能ワヤンの中で古代インドの叙事詩ラーマヤナとマハーバーラタがさかんに上演されてきた。これらの上演は主としてジャワ島とバリ島で行われてきたが、物語の内容は1960年代以降にコミックを通してインドネシアの人々に広く普及していった。叙事詩を題材とするコミックはいくつか存在するが、現在までインドネシアで代表的な作品として知られているのが、R.A.コサシ(1919-2012)によって書かれたワヤン・コミックと呼ばれる一連の作品である。この研究ではコサシの創作作品のうち、特に叙事詩マハーバーラタを描いたものに焦点を当て、コサシの出身地である西ジャワにおいて人形劇ワヤンの上演を考察することを通して、コミックとワヤンとの関連を物語の内容や、提示方法、担い手などの要素に着目しつつ考察することを目的とした。

参照したコミックのリストは以下の通りである。

『マハーバーラタ』全3巻、『続マハーバーラタ』全3巻、『バラタユダ』全4巻、『パンダワの昇天』全3巻、『パルクシット』全2巻、『バガヴァット・ギター』全4巻、『デワ・ルチ』全2巻。以上のコミックの内容を検討し、インドにおけるマハーバーラタの内容との比較や、インドネシアで出版されたインドネシア語のマハーバーラタの資料との比較研究を行った。参照したリストは以下の通りである。

Sunardi D.M. Baratayudha. Jakarta: Balai Pustaka 1978.

Sunardi D.M. Arjuna Wiwaha. Jakarta: Balai Pustaka 1978.

Sunardi D.M. Arjuna Krama. Jakarta: Balai Pustaka 1978.

その他、コサシは西ジャワの出身であるため、西ジャワの人形劇の上演が創作に影響を与えているという前提のもとで、西ジャワの人形劇上演における叙事詩の内容についても分析・検討を行うことをめざした。

### 3. 研究の方法

この研究の方法としては、文献資料の分析、インタビュー調査、芸能上演の観察と記録を行った。文献資料としてはまずコサシ自身のコミックの資料の分析を行った。さらにコミックの出版社、出版に関わる人々へのインタ

ビュー調査も行った。

またコサシのコミックに影響を与えたと考えられる叙事詩のインドネシア語のテキストの検討も行った。また物語の内容や典拠とした資料などの情報についてはコサシ自身へのインタビュー調査を行って、情報を収集した。さらにワヤン芸能の上演を観察、記録することを通して、芸能の中の物語世界の検討も行った。またその際、芸能者や芸能研究者などにもコサシのコミックに関するインタビューを行った。

予備調査として 2009 年にジャワ島セランとバンドンにてコサシへのインタビューと出版社へのインタビュー、その他芸術家や文化人へのインタビューを行ったことをふまえて、期間中に 2 回の調査を行った。2012 年 3 月にインドネシア・ジャワ島のバンドンにて第 1 回目の調査を行い、コサシへのインタビュー、人形劇の上演の調査を行った。2012 年 3 月 15 日にジャワ島セランのコサシの自宅にて、作品の内容、典拠とした資料について、芸能上演に触れた経験などについての詳細なインタビュー調査を行った。また 3 月 16 日にはバンドン在住の芸能研究者たちにコサシの創作について、芸能上演とコミックとの相互の関連についてなどのインタビュー調査を行った。2012 年 3 月 17 日には西ジャワ州博物館にて、人形遣いダダン・スナンドールによる人形劇の上演「ジャヤ・スピタン」を行い、内容の観察と映像・写真・録音などによる記録を行った。

2013 年 3 月には 2 回目の調査を行い人形劇の上演の観察と記録を行った。残念ながら作者のコサシが 2012 年 7 月に逝去したため、2013 年の調査ではコサシ自身へのインタビューを行うことができなかったが、現地の小中高生に向けて、芸能上演の前に、コサシのコミックについての講演会を行った。3 月 19 日に西ジャワ州アートセンターにて、人形遣いアペップ・フダヤによる人形劇上演「ハヌマン使者に立つ」「ガトカチャの戦死」の 2 つの演目を上演し、それらの観察と記録を行った。この時の上演は時間も長く、演目も複数であったため、帰国後にハードディスクなどを活用しながら映像資料のダビングを行い、共催団体となった現地の NGO ティカールとは、映像・写真・録音資料などの共有も実現することができた。これによって現地の NGO 団体が伝統芸能保存のためにこれらの映像音響資料を有効に活用することも期待できると考える。

#### 4. 研究成果

当初、この研究を計画していた段階では、コミックの作者であるコサシが伝統芸能のインスピレーションを受けて、独自の物語を創作し、それが叙事詩の普及に重要な役割を果たしたという点について関心を持っていた。しかし、インタビュー調査や文献調査を

進めていくうちに、それだけではなく、伝統芸能の担い手とコミックの創作者は相互に強い影響を与え合っていたことがわかってきた。コミックによって芸能者の上演のあり方も影響を受けていたし、オーディエンスとなる現地の人々もコミックによって物語の内容や叙事詩の中に見られる哲学や道徳観に強い影響を受けていた。

さらに作者のコサシはライブの上演のみならず、テレビやラジオなどを通して触れた多くの地域の芸能上演に影響を受けていたこともわかった。これはコサシが創作活動を始めた 1950 年代以降のインドネシアにおけるメディア文化の興隆の歴史とも深い関わりを持っていると考えられる。

当初の目的は、古代インドの叙事詩の内容に主たる関心があったが、それに加えて、コサシ自身の表現方法や独自の物語の創作などについても知ることができた。特にジェンダー表象などのやり方には、コサシが影響を受けた欧米の文化の影響も見られることがわかった。

この研究は、コミックの分析からインドネシアにおける古代インドの叙事詩の普及を考えるということにとどまらず、芸能上演における物語世界の考察、20 世紀前半に登場した新たなメディアとしてのコミックの影響力、ラジオやテレビなどの他のメディアとの相互関連、創作者と芸能者相互の関係、当時のインドネシアの人々にもたらした新たな価値観や知識、などの諸点を考える上でも有効な視点を提供するものとなった。特に欧米起源のコミックや絵画の影響を受けたコサシがリアリズムの手法を用いつつ、伝統芸能の世界を人々の眼前に具現化して見せたこと、そしてその中でインドの叙事詩の魅力を人々に広めたこと、さらに独自の解釈や創作によって新たな価値観を人々にもたらしたことなどは顕著な特徴であると言えるだろう。

このようにコミックという大衆文化と伝統芸能との相互の密接なかわりについて様々な視点からの考察を試みる可能性が提示されたと考える。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

福岡まどか

「インドネシアにおける伝統芸術と大衆文化の相互関係 西ジャワの人形劇とコミックのマハーバーラタ」、『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』第 39 巻、2013 年 3 月、125-151 頁所収

福岡まどか

「伝統芸能を次世代に伝え遺す インドネ

シアにおける NGO 団体の取り組みから』、  
『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』第 40  
巻、2014 年 3 月、71-91 頁所収

〔学会発表〕(計 1 件)

福岡まどか

「コミックに見られるジェンダー表象 イ  
ンドネシアのコミックを事例として」、国立  
民族学博物館共同研究「東南アジアのポピュ  
ラーカルチャー：アイデンティティ・国家・  
グローバル化」代表：福岡まどか 2014 年 2  
月 22 日国立民族学博物館にて

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福岡 まどか (FUKUOKA Madoka)

大阪大学大学院人間科学研究科・准教授

研究者番号：40379318

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：